

犬飼 一夫さん

元下之一色漁業協同組合漁師



今から 50 年ほど前までは、藤前干潟を含む名古屋港の周辺で、盛んに漁が行われていたと聞きます。藤前干潟から庄内川と新川を上流に 3～4 km 遡ると、当時大きな漁師町だった下之一色町（名古屋市中川区）があります。本日お話を伺う元漁師の犬飼さんは、名古屋の最後の漁師としてテレビ出演や講師を引き受けるだけでなく、博物館やビジターセンターなどで漁法の再現模型を展示するなど、昔の風景を未来に繋ごうとされています。藤前やその周辺の風景はどのようなものだったのでしょうか。この地域と歴史を大切に想う犬飼さんに、当時の写真を見ながら、お話を伺いました。



当時の写真等の位置

名古屋市電築地線跡

■下之一色町（略称：一色）の江戸時代以前からのお話を聞かせていただけますか？

昔、藤前周辺はみんな海だろう。そこへ一色だけヨシ原の島ができてったわけだなあ。ヨシの生えた島になっとったが、そこへみんなよそから仕事のないやつが流れ着いてきて、暮らして一色の町ができてったわけだなあ。よその地域の百姓は長男にしか本家の跡継がせなんだ⁽¹⁾、次男坊、三男坊になるとしょうがねえ⁽²⁾、一色に流れ着いてきて漁師の仕事覚えてなあ。昔は一色のまわり全部海だもんで、魚獲ること覚えて、それで、一色の町ができてったんでねえかなあ。

あの織田信長が長良川で戦争【聞き手注：長島一向一揆の制圧か。詳細不明】したとき、一色の船を使って戦争に利用しとるって、本に書いとったぞ。そのときに、船が150～160艘あったって書いてあって。相当昔から一色は漁師町だったわけだなあ。ほんとの話かどうかは知らんが、おれもはっきり覚えとるわけではないけども、一色の歴史はとにかく古いぞ。名古屋の歴史は、なんでも徳川時代が有名だもんなあ。でも、一色はその前からあるだもん【聞き手注：下之一色にはかつて城があり、その城主は前田長種^{ながたね}らだった。この下之一色城は1584年の小牧・長久手^{こまきながくて}の戦いで廃城し、前田長種は本家筋の前田利家を頼り幸姫（利家・まつ^よの娘：後に一色殿と呼ばれる）の婿となった。】。

徳川時代（江戸時代）は、尾張藩が漁師専門のところだけに優先的に漁やらさして、他の人間には漁をやらせんように決めとったわけだ。一色は尾張藩の領土だけれども、一色の管轄は犬山、成瀬家だった。成瀬氏は尾張藩に仕えとる家老で、尾張藩から犬山に地場もらって一つの藩（犬山藩）をでかしとった訳だがね⁽³⁾。尾張藩に仕えとる人間であっても、成瀬氏は余所行きゃあ殿様と同じくらいの石高だもんで、力があつた。こちら、一色周辺はそっくり尾張藩の管轄だけれども、ええとこだけ犬山藩の管轄にしたんでねえか。成瀬氏、魚好きだったかもしれんわなあ（笑）。尾張の殿様は、犬山の殿様に一色を任しちまっとったわけだなあ。一色が犬山藩の管轄だったって、今はほとんどの人は知らんわあ。みんな、一色の管轄は尾張の殿様だ、尾張藩だと思とるわあ。

明治になつても、一色は徳川時代から漁師町として漁業の権利とかが優遇されとつたで、法律が変わつてきても具合いいことはあつたわな。それが終戦になつてからほとんど権利が無しになつてしまつとるだけぞ。でも、徳川時代の優遇が生きて、何にでも尾を引いとるわけだな【聞き手注：江戸時代に漁師町として優遇された歴史があつたから、下之一色町が昭和12年に名古屋市に合併された後も漁師町として栄えることができた⁽⁴⁾と犬飼さんは考えている。】。

おれが学校行くようになってきたら、一色の人口は、多いときは一万何千人とおつただろう。おれが尋常高等小学校のときは、生徒は1,200人ばかりおつたなあ。それ全部一色に住んどつたぞ。それが今人口5,000人ばかりで、人がおらんだねえか⁽⁴⁾今は65歳以上の人がばっかりだ。

■犬飼さんの子どもの頃のお話を聞かせていただけますか？

おれの生まれは、昭和6年12月10日。昭和12年に小学校に入っただろう。そのときは、まだ明治からある尋常高等小学校だったなあ（写真-1）。4年生になったら国民学校へ切り替わっちゃった。義務教育が6年生までだっただろう。6年生終えて、それから2年間、国民学校の高等科があった。それでも、高等科には、全員は行かなんだなあ⁽⁵⁾。高等科を辞める人間もあったわ。おれは国民学校の高等科に行ったけども、昭和18年の4月に入学して、昭和19年10月1日から、学徒動員で愛知時計の明德工場に行ったわ【聞き手注：犬飼さんが学徒動員で通った工場は、現在のあおなみ線中島駅付近にあった愛知時計電機の明德工場だった。】。



写真-1 正色尋常小学校高等科家政科で行われた海苔製造実習訓練の様子（昭和2年）（地図①）

■戦争の頃のお話を聞かせていただけますか？

4年生のときに尋常高等小学校が国民学校になったら、教科書が無かった。国民学校の教科書をでかす⁽⁶⁾紙が無いもん。尋常高等小学校と国民学校じゃあ教育が違うで、みんな教科書を交換せんならんだろう⁽⁷⁾。でも、教科書が作れなかったから、わら半紙刷って持ったもん。

それでも、まあ、勉強する時間なかったわ。みんなそこらの道路を開墾して、鍬もって通学しとっただわ。そんなもんだで、自分何にも習とらん⁽⁸⁾。高等科になったら1年半で学徒動員あったでなあ、軍需工場に行ってたで、学校は行とらん⁽⁸⁾だろう。

学徒動員で行った愛知時計電機の本社（名古屋市熱田区）は、名古屋で一番空襲のひどかったとこだ。おれは今の中部鋼鉄株式会社がある場所（明德工場）に行とった。今も明德工場の土地はそのままあるわ。今のえきさい病院（名古屋えきさいかい病院、名古屋市中川区松年町）の西の方だ。そこら一帯、戦争時分は全部工場になってまったで。みんな立ち退きさしちやってよお⁽⁹⁾。

おれんところ（明德工場）ででかしとった⁽¹⁰⁾のは、飛行機だない⁽¹¹⁾。どんなもんだか知らん。でも、大砲かなんかの部品だない⁽¹¹⁾かなあ。工場で、おれは旋盤の作業やとった。

空襲は一色に3回あったわ。空襲で一色の町は半分焼けとるわ。防空壕はちょっと空地ありやあ、みんな各家庭に掘ってあるもんだで。だけど、そんなところ入とったら死んじやうわ。空地の広いところに防空壕掘ってあるやつはええわなあ。でも、そうだない⁽¹¹⁾場合は、空襲で家が砕けてきたら防空壕が下敷きになっちゃうんだもん。

毎日朝、会社（明德工場）に出勤すると、10 時になるとプワーンとサイレンが鳴って、「警戒警報、空襲警報」って毎日続いたぞ。空襲警報鳴るとみんな避難するで、工場から解放されて、家まで逃げてこった。そして、また警報が解除になって出勤してな。1 日に 4 回同じ道歩こった。

ほんでも、始まりの空襲のうちはよかったわ。始めの頃の空襲は、建物の窓から伊勢の方見ると、B29 爆撃機が志摩半島からずーっと来て、湯の山近所（三重県御在所岳付近）際からくりっとまいて⁽¹²⁾来るわ。くりっとまいて⁽¹²⁾来て、自分らの頭（名古屋上空）に B29 が来るだけでも、その B29 が飛んでくる角度によって落ちてくる爆弾がどこへ行くかがわかるわあ。ああ、こいつはおれらより後ろへ落ちるなあ、こいつは前へ落ちるなあというように。このように、ちょっと自分らの気持ちが落ちていて、空襲に慣れてくるとよお、爆弾が落ちる場所がわかるようになったわ。B29 が飛んだのは、昼間は 1 万 m 上空だろう。でも、夜は人間の姿が、飛行者が見えるような低いところから飛んで来るぞ。それで、爆弾だない⁽¹¹⁾焼夷弾^{しょういだん}をめちゃくちゃ落ってったとこでは⁽¹³⁾、あっちでも燃えこっちでも燃え【聞き手注：焼夷弾は、発火性の薬剤を充填した爆弾で火災を起こすためのもの。爆風や爆弾の破片で攻撃対象を破壊する通常の爆弾とは異なる。】。ほんでも、今思うと、まだその時分はよかったろう。腹ん中まだ落ち着きがあつたろう【聞き手注：空襲の始めの頃は、後で述べられている艦載機による襲撃ほどは命の危険を感じる事がなく、気持ちはまだ落ち着いていたそうである。】。

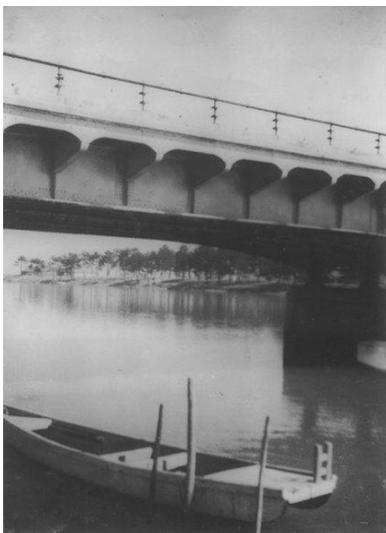


写真-2 戦争で鉄供出のために間引きされた橋の欄干（地図②）

これ（写真-2、地図②）見てみ、庄内川の国道一号線の橋。これは橋の欄干が無いだわなあ。戦争の時分、鉄砲玉作る鉄が無いので、橋の欄干まで弾丸に変わっちゃった。だから、橋の欄干が無い。ここまで日本は疲弊しとったわけだぞ。今はどうだが知らんが、昔は普通の家に仏壇があるわなあ。仏壇の金属類も全部そっくり供出で取られちゃって、鉄砲とか大砲の弾とか作ったわけだ。ほんとにそんなとこまで、日本はやられとったわけだなあ。

おれの父親は戦争には行つとらん⁽⁸⁾、歳が来とったから。あない時分に⁽¹⁴⁾、46 歳で徴用は解除になった。45 歳を越すと使いもんにならんってなあ。今なら 46 歳なら盛りだがない。おれは兄弟は 7 人で、おれが長男だわあ。戦争の時分には、おれは学生だったから、年下の兄弟たちも幼くて戦争には行つとらん⁽⁸⁾。

昭和 19 年 12 月に東南海地震あつたな。この地震の揺すった日によお、おれら朝、学徒動員で工場へ出てったわ。工場へ行ったら、どういうわけか、「今日は大空襲があるで全員避難しろ、帰れ」、って言われて。ほんで、家に帰ってきて、昼になったら地震がやってきた。何かの予告があつたのか、神様がそういうふうにくれたのかはわからん。そんな

「空襲があるから帰れ」なんて避難命令出たの、終戦までこの東南海地震のとき1日だけだなあ。なんでああいうことあんだかなあ⁽¹⁵⁾。不思議だと思った。

東南海地震で、おれの家は、瓦が半分くらい落ちちまった。戦争でそんな直しとりやせんし。おれら、東南海地震のとき、家からお寺へ逃げたわな。ほったら、お寺見とったら、鐘突堂が砕けたわ。戦争で寺の鐘もみんな供出でとられちゃったろ。鐘があれば、鐘が吊ったるで重心がとれてたろう。鐘が無いもんで重心がとれんで、鐘突堂がくしゃっと崩れちやった。

地震の翌日工場に行ったら、地震で木造の工場はひしゃげてしまとったわ。鉄骨の建物は残とったわ。工場の中に大きな機械あつただろう、旋盤とかボール盤とか何とか。今思うと液状化が起こって、機械が地面に埋まてしまとったんだなあ。あんな重いもん（機械）、立ととりやせんわな。全部埋まてだめになとった。機械を掘り起こして、使えるようにするまでに、日にちかかるだろう。それまでに戦争済んでしまうわ。

東南海地震の被害はひでえぞ。志摩の方もひでえだろ、熊野から、和歌山から津波が来てな。この地震で、日本の中心的な名古屋をやられちゃつただろう。名古屋の軍需工場、軍需物資ができとつたところ、全部そっくりやられちゃつたもんだで。そんで、1月過ぎたらまた三河地震が起こつた【聞き手注：三河地震が起こつたのは1945年1月のこと】。三河地震は夜だつたわ。名古屋も揺れたわ。

この地震が知られとらんのは、隠してあるだなあ。敵に知られると戦争の弱点になつてまうで、新聞報道も何もなかつた。大正12年の関東大震災に負けられんくらい規模大きかつたもんで。これで名古屋の軍需工場もガタガタにやられちゃつて、空襲よりひでえわ。この東南海地震が揺すらなんたら⁽¹⁶⁾、まだ半年くらい日本がんばつとると思うわな。

終戦が近づいてきて、昭和20年6月頃になつたら、B29 だなし⁽¹⁷⁾、艦載機（航空母艦に乗っていた戦闘機）が、来るようになったろう。そいつ（艦載機）が来ると、人間見たら殺すまで上空くるくる旋回しとつた。おれら空襲になつて家まで逃げてくる途中で、B29の時は爆弾落ちてきたりなんかすると、田んぼのあぜ道隠れたりなんかしとつた。けど、艦載機が来るようになったら、人間を見たらバーツと機銃掃射だろう。戦争映画でやる通りに、弾が道路をぱっぱとえぐつた。まあ、逃げるに逃げれなんだ。逃げたらやられんなし⁽¹⁸⁾、艦載機に見つかったら最後だで。艦載機は操縦している人間が見えたぞ。飛行士が白いマフラーして操縦してくとこ見えたもん。まあ、艦載機が来るようになったらほんとに怖かつたな。おれらは物陰に隠れるだけでよ。

まだB29の落とす爆弾のうちはよお、爆弾が落ちてくるときだけ気を付けるだけでも、余裕はあつた。そうあつちもこつちも身近なとこに落ちてこなんだ⁽¹⁹⁾。艦載機は空襲警報入らんでも上空に飛んでくるもんだで。艦載機はどっから飛んでくるかわからせん⁽²⁰⁾だろう。日本軍の方も艦載機の動きはよう掴んどらんで、空襲警報や警戒警報やつとれんようになつてくるだろう⁽²¹⁾。艦載機が来るようになって、あれもこれも言つとれんようになつてきたな。終戦だなあ、と思つたな。まあ、日本は勝てんやつて、みんな子ども心にも

話しとったな。日本は負けるわあって、口出してよ。

富山の方、北陸の空襲でも名古屋から見えとったな。空襲で、夜、空が赤くなりおって、金沢やられた、富山湾やられたって名古屋から見て言ってた。ほんとに、終戦の半年前に日本が負けとるだったら、まんだこんな風に空襲ひどなかつたらなあ。そりゃ、東京や名古屋の六大都市は仕方ねえで、始めの頃の空襲でやられとるけども、終戦もっと早かつたら金沢などの中小都市までやられとろうせんでなあ⁽²²⁾。

藤前干潟の近くでは、今のトリトン橋（名港西大橋）のあるところに高射砲陣地造ってたな（写真-12、12 ページ）。半分まで造ってたな。終戦の時には台はできてしまとったわ

【聞き手注：高射砲陣地とは、航空機を射撃するための高射砲を設置した場所。現在の名

港西大橋の下辺りの海上に造られていた高射砲陣地は、台だけ造られたものの、完成に至らず終戦になったそうである。また、藤前干潟にある戦跡としては、他に「永徳スリップ（写真-3、地図③）」と呼ばれるコンクリートのスロープがある。これは、戦時中に愛知航空機株式会社の永徳工場から水上機を水面に下ろすのに用いられていた】。



写真-3 永徳スリップ（地図③）

昭和 20 年に終戦になって、名古屋にも進駐軍が来とった。野跡より南側は島（地図④）

みたいになとって、それが戦時中は飛行場だったろう。ここの飛行場へ中部地方の進駐軍の食糧物資から軍事物資から全部蓄積しとって、鉄砲持って、そこ警備してたわ【聞き手注：終戦当時は、野跡町までしか埋め立てられておらず、野跡の南（現在の汐止町）の海上にあった飛行場は島のようになっており、進駐軍の基地とするのに都合がよかったようだ】。進駐軍が上陸してきた時は、漁師はみんな船出していかんと言われて、ほんで一週間、漁は休みだった。おれらは進駐軍の邪魔になるし、進駐軍も警戒せんならん⁽⁷⁾。

終戦後も、学校では何にも習つとらん⁽⁸⁾わ。学校も所属してたが、おれは行つとらせん⁽²³⁾。漁行つとった。たまたま学校に出てって、終戦でみんな本持つとらせん⁽²³⁾で勉強しとらん⁽⁸⁾だろうと思つたら、本無しでも何かを書いて学校で一所懸命習つとん⁽⁸⁾だろうと思つたら、ABCなんて習つとる。「しまったー」と思つたけど、遅かつたわ(笑)。もう勉強に追いついていけんでいかんわあ。今も、ローマ字も何も知らん。もつとも、アルファベットの大文字だけは読めるわ。なぜかつたら⁽²⁴⁾、漁師を辞めてから名古屋港の舢^{はしげ}に乗つとった【聞き手注：犬飼さんは、漁業権が無くなって漁師を辞めてから、舢^{はしげ}という港湾内で外航船から貨物を積んで倉庫へ運ぶ船舶、または倉庫から外航船へ貨物も運ぶ船舶に乗って、仕事をしていた。当時は、大型の船は名古屋港の中まで入ることができなかつたため、舢^{はしげ}が必要だった】。ほんで、輸出や輸入の荷物、船に積むだろ。これはニューヨーク行きだ、これはワシントン行きだ、サンフランシスコ行きだ、荷物分けて積んで。

荷物にアルファベットの大文字で行き先が書いてあるもので、おれ大文字は荷物で覚えただけだ。小文字で書いてあったら、何も読めんわ。

■犬飼さんは昔からずっと漁をされていたのですか？

おれの家は先祖代々ずっとみんな漁師。女子（お母さん、おばあさん）は、漁師だなかった。一色の娘は、昔は名古屋に働きに出たでなあ。おふくろの親は漁師だなかったなあ。漁師の道具の籠作りしとった。おれの父親が漁師やって、おれが小さい頃に学校の休みに漁に付いて行ったわけだ。

戦争中、若え漁師はみんな、兵隊にとられちゃっておらせん⁽²⁵⁾だろう。若えもんおらせん⁽²⁵⁾で、年寄りばかりだ。年寄りは、1人では漁でけえせん⁽²⁶⁾、30人ばかりの団体に揚繰網（写真・8、11 ページ）という網を一つでかして⁽⁶⁾漁をしとった。おれは小学校2年生のときに、揚繰網の漁に付いて行きおったな【聞き手注：揚繰網とは、2艘の船で、魚群を取り囲むように巾着袋状の網を広げ、網をすぼめて魚を獲る漁法である。30～40人で行われ、下之一色漁業協同組合で行われていた漁業の中で最も大規模な漁法であった。】。昭和17年というとおれが5年生くれえだなあ、そんなときもらった給料は2分で（10割のうちの2割）、さらに1年過ぎると給料3分もらったわ。そういう給料の支給制度あるんだわ。

漁でもいろんなこと覚えるわあ。見たり聞いたりして。天気荒れの予想でも、漁のやり方でもよお。基本はこれ、自分で見て聞いて覚える。学校降りる⁽²⁷⁾と、給料半分、五分だわ【聞き手注：つまり半人前になったということ。】。

昭和37年でみんな漁師辞めとるわなあ【聞き手注：昭和34年の伊勢湾台風の後、高潮防波堤の築造等で下之一色漁業協同組合は漁業権を放棄した。】。漁師辞めて商売替えた。漁師辞めてからやった仕事は船関係だ。

けれども、みんな昔が恋しいもんで漁は行きたいだろう。会社の休みに漁行けるように、30人くらいが金出し合ってよお、遊びの船を持とったわ。船の名前は牛若丸だった。ほんで、様々な網（漁）に行ったりした。仕事サボっては漁ばかりしたわ(笑)。定年退職してからも遊びで船に乗ってた。でも、おれらの獲ってきたもんで売れん。市場の人はどこで獲れたものか知とるだろう、買わんでいかんわ⁽²⁸⁾。あんなもん、一色のおれらが獲ってきたもんは、一色の近くの魚だ、食えんでいかん⁽²⁹⁾ってなあ【聞き手注：すでにこの頃、庄内川の水質がかなり悪くなっているという認識が住民にはあったようだ。】。おれらが獲ってきたものを近所に配給したりもしたけど、近所の人水が悪くなったと知ってるから嫌々貰とる人もおったわなあ。今でも三河の漁師が庄内川に来てシジミ採とるだろう。あれは三河の漁師だ、庄内川で採ったもんを三河で売れるけど、一色の人間だったら、おれらが採ったら、ここの庄内川のシジミだつてばれちゃうもんで、買ってもらえんでいかんわなあ。

■当時の漁や生活について教えてください。



写真-4 貝巻き (木曾川)

一色は魚の種類がたくさんあるわけだわ。一色の漁師は魚によって獲る道具が変わるとるわけだ【聞き手注：下之一色の漁師はたくさんの漁法でたくさんの種類の魚を獲っていたため、多くの種類の漁具があった】。

例えば、「貝巻き」(写真-4)という漁法あるだろう。藤前では日光川の辺りで貝巻きやとったわ(地図⑤)。「貝巻き」には共同漁業権があるだわな。漁業権を組合(漁業協同組合)で取とるわけだわ。

で、組合員なら「貝巻き」で貝を採れる。「貝巻き」をしていた場所は主に木曾川、漁期は一年中だった。貝巻きをしたのは、一色の中でも西の切(下之一色の西の地域)の人間が多かった。一色では、獲る物によって、みんな同じところに固まって住んでるわ。

「蛎搔き」という漁法は、これも組合が共同漁業権を持とった。「蛎搔き」の魚種はシジミ、採れる場所は木曾川と鍋田川、新川、庄内川だった。長良川の方は行けなんだ。漁期は一年中だけど、1月、2月は寒いからシジミは採れん。シジミは、寒くなると深いところへ入っちゃとるで。3月になってくるとシジミが浮き上がってくるもんだで、3月になると良い頃でシジミ採るわあ。

「のぞえ」は、ところによっては「のぞき」と言う人間もおる。「のぞえ」は船の上から獲る方法だけでも、漁業許可無し(規制されていない漁法)だったわ。組合で漁をして良いと認めるだけで、県に許可取らずにやってよかったわけだ。「のぞえ」ではメジロ【聞き手注：愛知県ではマアナゴのこと。】とウナギを獲ってた。「うなぎ土管」でも、組合で認めとりゃ、漁して良かった。これも組合で漁業権を持とるわけだわな【聞き手注：「うなぎ土管」はその名の通り、ウナギを獲まえる漁法で、竹筒と陶製の土管を束にした仕掛けを海の中に沈めておくものである。】。

他にウナギ獲るのは「うなぎ搔き」、「つぼけ(石倉)」があったぞ【聞き手注：「うなぎ搔き」は、干潮時に漁師が鉤付きの棒などでウナギを引っかけて獲る漁法である。「つぼけ(石倉)」は、浅瀬に石を積み上げた仕掛けを作り、干潮時の少し前に仕掛けの周りを網で囲んで、石の隙間に入ったウナギなどを獲る漁法である。】。「つぼけ」には、地先漁業権があった。地先漁業権は、自分のとこの村の浜に設定してもらえるわけだわな【聞き手注：地先漁業権とは、第1種共同漁業権のこと。定着性のある水産動物が対象で、漁業協同組合(漁業地区)で範囲が決められている。磯や浜、干潟などに関しては、そこに面する位置にある組合が優先的に「つぼけ」の漁業権があった。】。石倉漁で使う石倉(石を積んだ仕掛け)は、設置する場所があると、ここ一坪はだれそれ、ここはだれそれって場所を割

り振られてた。

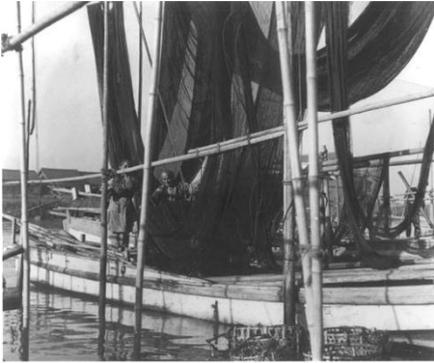


写真-5 川建網の網干し（地図⑥）

これ（写真-5、地図⑥）が「川建網^{かわだてあみ}」って言って、この網を干しとるこだ。大きな網だろう。川でシラウオ獲る網だ。細かい魚は何でも入るわ。

川でも結局、漁場争いあるだろう。熱田の漁師と一色の漁師と漁の場所を分けるけんかがあったとき、協定書をでかした^⑥わけだ。この協定書ができたときに、代表者はうちのじいさんになつとるわ。うちのじいさんよお、100歳少し手前まで生きた。昭和12年に亡くなつとるわ。じいさんは明治の前から生きとったわけだ。

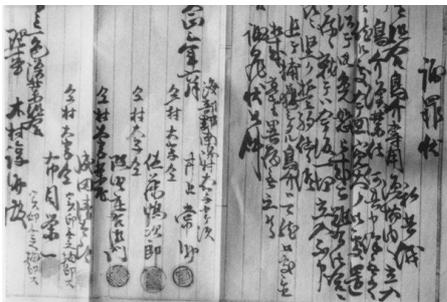


写真-6 鳥貝の密漁の詫び状

（南陽町の住人が下之一色漁業協同組合に出した詫び状の写真-6を見ながら）、南陽町の人間が鳥貝^{トリガイ}を一色の組合（漁業協同組合）の漁業権がある漁場に採りに行ったわけだろう。鳥貝を採って、漁業権を侵害して取っ捕まって、組合宛に詫び状を書いとるわけだ。戦争前は、鳥貝なんかは高級品だわ。この貝を採るのに許可証が必要だで、漁師の他の人間では採れなんだわ。でも、許可証無しで、漁師でない南陽町の人間が

採りに行ったわけだ。この詫び状は大正3年6月と違うかな⁽³⁰⁾。

当時は、こうやって（写真-7、地図⑦のように）シジミも船から担いで陸に入つとる。肩で担^{いな}ってな。おれは、貝採りってやったことない。シジミはどの地区の人間って、決まってるだろう。おれは西ノ切地区だ。何々ノ切は打瀬網専門とか、南ノ切は何が専門とか、そういう漁師（漁法、漁種が同じ漁師）が固ま^{みなみ きり}つとるもんだで、同じ地区で船の格好は似てる。そんで、同じ形をした船も同じ地区に固ま^{うたせ}つとるわけだ。同じ庄内川で漁をするでも、シジミ専



写真-7 蜆採漁帰りの重一丸（地図⑦）

門で採つとる地区と打瀬網やつとる地区と別々だもんだで、ちょっと地区離れとると他の様子はわからなかった【聞き手注：打瀬網とは、漁船に2～3枚の帆を船体に並行して張り、帆に受ける風力で袋網を引いて魚介類を捕獲する漁法のことである。】。

おれの専門は揚繰網^{あぐりあみ}（写真-8、説明は7ページ）、改良三枚網と、エビ流し網と、そのへんだな【聞き手注：三枚網は刺網と呼ばれる漁法の一つで、魚が遊泳するところを遮るように網を海底に張り、魚を網の目にかま^{さしあみ}せて獲る漁法である。細かい目の網の両側に粗い目の網を重ねて張ることで、効率よく魚が獲れるように改良されていったが、現在は漁

業資源保護の観点から禁止されている地域も多い。流し網も刺網の一つで、網をいかりなどで固定せず、潮流や風力によって網を流し、魚などを獲る漁法である。】。最初は揚繰網で商売出として、名古屋港ならあそこ（地図⑧）でやった【聞き手注：名古屋港以外でも揚繰網を用いた漁は行われていたそうである。】。名古屋港のその場所は一年中水温下がらないから、魚多かった。黙って漁をやると水上警察が怒るから、名古屋港長の許可取ってやったわ。いい漁場だったぞ。三枚網やエビ網には漁師辞める前の10年間くらい出とる。



写真-8 揚繰網の實況（鍋田）

揚繰網ではよお、ボラやセイゴとかそういう魚獲って売ったけども、終戦になってきて、海魚をみんな食わんようになってきただろう。海魚には油臭いやつが交ざったりなんかしとったぞ。今は、ほんとにみんな食べ物に気つけとる【聞き手注：現在は、世の中の人みんな食べ物の安全性に気を付けており、おいしい魚や安全な魚しか食べなくなった、という意味。】。終戦直後は、食べるもんは無いで、どんどん安いもんや大衆的なもんを食ってとった。それが年々高級なもん変わってきちゃって、エビやカニを食うようになってきたわ。だから自然とエビやカニのような高いもの獲まえるよりしょうないで⁽³¹⁾。終戦からしばらく経ってから漁師辞めるまでは、そういうもん獲ってとった。エビは、クルマエビを獲ってたが、たくさん獲れてた（写真-9、地図⑨）。



写真-9 下之一色魚市場でのクルマエビ、カレイ、エイの販売（地図⑨）

エイは煮て食べてた。エイはエエぞ(笑)。何がいいって、鱗が無いで。買ってきたら全部食べれるぞ。他の魚は何でも皮を取らないかんけど、エイは皮取らんでもそくし⁽³²⁾食えるようになってまうで⁽³³⁾。

カキは養殖だけでも、藤前あたりは海が浅いで、伊勢みたいなカキ棚を使った養殖とはやり方が違うわけだ。ただ杭を置いてくだけだわ。その杭に自然に付いたカキを採ってとった（写真-10、11、地図⑩）。川の先にカキ養殖場があったで。

堤防のカキと言やあ、木曽川の堤防にカキが付いてたわ。この庄内川の堤防と一緒に、木曽川にもコンクリで堤防ができてとるわけだ。そこにカキが付くだろお。木曽川は一級河川で、国が堤防をでかしとる⁽³⁴⁾だろう。そんなとき、愛知県の管轄だった庄内川より、木曽川



写真-10 藤前の牡蠣養殖場（地図⑩）



写真-11 藤前沖の牡蠣養殖（昭和 35 年）
（地図⑩）

は上の管轄だ【聞き手注：庄内川は昭和 25～44 年の間、治水事業が愛知県に移管されていた。現在、庄内川の管轄は国（国土交通省）である。】。木曾川でカキ採るには国の許可が必要で、一色の組合で許可取っとるわ。名古屋港の中に付いとるカキを採るのは、名古屋港長の許可がいるもんだで。許可の無い人間は採りに行けえせんわけだ⁽³⁵⁾。

カキの形は場所で違っとるわけだ。どこのカキだっっていうのは、ぴっと見りゃ、ぴっとわかるぞ⁽³⁶⁾。

木曾川のカキ、名古屋港から西のカキはよお、ちつと縁が細長え。名古屋港の中のカキは丸ったいわ。名古屋港の中のカキは実は大きい。うまいのは木曾川のほうがうまいけどな。だけどフライにしたり、てんぷらにしたりしようと思ったら、名古屋港の中のカキは実はおっきいもんだで、味はええわなあ。

ハマグリも庄内川の向こう（地図⑪）では採れとったけども、他に藤前で「これは！」っていうのは無いで、一色の漁師で商売になるとこはなかったなあ。ハマグリ以外で、藤前でよく獲れて稼ぎになるものはなかった。

当時、藤前でまだ海苔養殖はやとったけども（写真-12、地図⑫）、終戦から海苔養殖は一年一年ダメになってったわ。

魚は獲れるは獲れとったけども、ウナギだとかボラだとかそんなもんは大々的には獲れなんだな



写真-12 114号漁場（海苔養殖）。上端は高射砲陣地（写真上が南、地図⑫）



写真-13 かまぼこの製造

あ。藤前でウナギ獲るって人っていったら他でも魚獲る人で、あんまり近くの場所の魚だけで商売してる人は少なかったなあ。それでも、まだウナギが一番商売しとった。他の魚を獲る漁師はこら（藤前周辺）では商売にならなんだなあ。そんな人らは中部空港の方や知多の方へ行っちまいおった。終戦当時なら、まだこら（藤前周辺）でも魚を獲っておったけども、戦後だんだんいかんようになってったわ⁽³⁷⁾。

（写真-13 を見ながら）これは、ちくわ、かまぼこをでかしとる⁽¹⁰⁾とこだ。一色にはかまぼこ屋 15～16 軒あったわ。かまぼこは一色では人気悪いわ。かまぼこの材料の魚を見とるだろう。普段生きた魚見とるのに、新鮮でない魚ばっか

りかまぼこの材料にする(笑)。材料が悪いもんだで、かまぼこはまずいてことだわなあ。あんなもん食えるかて(笑)【聞き手注：冷蔵技術の発達していないかった昔のお話。】。今でも、一色でかまぼこの製造は2、3軒やっとなるな。



写真-14 本町通りの漁師直売(昭和42、43年頃)(地図⑬)



写真-15 サワラの販売買人の西川新次郎さん(地図⑨)



写真-16 延縄ウナギ水揚中の明豊丸(地図⑨)

(写真-14を見ながら、)これ本町通り(下之一色町にある通り、地図⑬)だったもんな。今は車走っただけで人間一人もおりやせん⁽³⁸⁾。だけど当時は、みんな道路へこうやって写真みたいに魚売ったわ。

今も一色の魚市場は毎日やっとなるけども、ほんのごく一部やっとなるだけだなあ。当時はその店によって、みんな売っとなる魚の種類が違うわけだ。この写真(写真-15、

地図⑨(下之一色魚市場))は、尾張新次郎太鼓^{おわりしんじろうだいこ}の西川新次郎さんだぞ【聞き手注：尾張新次郎太鼓は、愛知県

西部の農村地帯に伝わる神楽太鼓^{かぐら}で、毎年藤前干潟で行われる藤前干潟ふれあいデーでも演奏される。】。新次郎さんは魚屋だ。ふれあいデーで新次郎太鼓っていう太鼓を叩くだろう。新次郎さんは、この太鼓の流祖だ。昔から、神楽太鼓は一色ばかりじゃなしに、もともと尾張地方にあったらうけども、戦争で途絶えちゃってすばんじやった⁽³⁹⁾のを、またこの人が広めた【聞き手注：その

太鼓の叩き方は下之一色に昔から伝わるものだそうである。新次郎さんは、今はもう亡くなっている。】。

熱田神宮行っても太鼓この流儀だもんな。新次郎さんの家はうちの近くだったあ。今、藤前のふれあいデーで太鼓聴いとると子供の頃を思い出すわあ。

これ(写真-16、地図⑨)は、ウナギ釣ってきて、船の中で生かしてあるのを、うなぎ屋の入口で揚げてるところだわ。ウナギは市場に持っていかないで、うなぎ問屋に持ってった。漁師がうなぎ問屋に納めて、そこから問屋

が市場に出してたぞ。

(写真-17、地図①を見ながら、)これ、船の帆を乾かしたる。この橋は国道一号線だ【聞き手注：庄内川にかかる一色大橋のこと】。

一色の漁で使っていた船は、独特のペンキ塗ったもんで。船見りゃ、どこの船だ、どこの漁師だっていうことが、みんなわ



写真-17 一色大橋の蜆水帆乾し(地図①)

かるわけだ。みんな浜の波に船の形合わせてあるだろう【聞き手注：それぞれの集落の浜の波に合わせて船を作っている、船の形や色を見ればどこの漁師の船か分かる。】。波の大きさによって船の動きも作りも変えてある。木船の時代は日本中どこでも一緒の形の船っていうわけでない⁽¹¹⁾。今はプラスチックのヤマハの船で、日本中一緒の形になっちゃっとなるけど。



写真-18 東北産サンマの干物、干し揚げ中（魚市場）（地図⑨）



写真-19 魚の行商人のお帰り

ハマグリは加工する業者がある。魚は魚で加工する業者があるもんだで（写真-18）。一色の町行きやあ、それを業者に納められる【聞き手注：下之一色はとても大きな漁師町で、カキを採るカキ専門の漁師や、ハマグリを採るハマグリ専門の漁師などがいた。さらにそれらをそれぞれ加工する業者や卸業者など細部まで分業化されており、それらの漁業に関する専門業者が下之一色に集まっていた。このため下之一色に行けば、それぞれの専門業者に魚を出すことができた。】。漁師でない南陽町の人が魚獲って来たって、南陽町の漁は素人だろう、金にならんだろう。南陽町では売るところも無い。だもんで⁽⁴⁰⁾皆、一色に獲れたもの持って来るんだな。一色の町で漁師が 500 人おりやあ、加工業者の人が 500 人はおったわ。漁に使う網作る人とかもいた。名古屋市の街ん中まで行商ぎょうしょうに行く人もおるし（写真-19）、下呂^(岐阜県)の方まで行って、魚を納めてる人もおった。前の時代から漁業でがんばったで、漁に関するものは何でもあったわな。

一色にあるしぐれ屋、おれの家の隣がやとったけども、生のハマグリを浦安（千葉県）から取り寄ったわ。一色のハマグリばかりだなし⁽¹⁷⁾に、東京のハマグリって一色のハマグリより安く買えるで、しぐれをでかす⁽⁶⁾のに取り寄った。浦安からハマグリ買って、しぐれをでかして⁽⁶⁾。ほいで、でかした⁽⁶⁾しぐれを桑名くわな（三重県）で出すこともあったわけだな【聞き手注：しぐれとは、時雨煮^{しぐれ}のこと。生姜を加えた佃煮の一種で、ハマグリやしぐれ煮は桑名の名産。】。何年か過ぎたら、東京木更津のハマグリの業者が、トラックで生のハマグリ運んどって高こつ⁽⁴¹⁾でしぐれ作り覚えて、直接桑名へしぐれを納めとったわ。生のハマグリをトラックにいっぱいって、どらげ⁽⁴²⁾金取られるか知らんけども、直接しぐれにして、トラックにいっぱいしぐれ載せたら、ほんとに運搬費用が一部分で済むだろう。生のハマグリより嵩は無えもん。そんなこと聞いたことあったわ。しぐれを取り引きしとった業者の子孫が一色にもおったし、浦安にもおったで。

おれ、あっち（千葉県浦安市）で、さらし貝の作り方を一色から浦安に教えに来たって

いうのを聞いた【聞き手注：さらし貝とは、しぐれ煮の材料であるハマグリ^④のむき身を取った後の貝殻を、きれいに洗い、乾かして、2枚の貝殻を元の形に合わせて出荷するもの。軟膏などを入れる容器や工芸品の材料として重宝された。】。ハマグリ^④のしぐれの作り方も、浦安は、昔は知らなんだ。昔、向こうは、ハマグリ^④の身をとって殻を^{ほう}放^ちち^ゃったけども⁽⁴³⁾、一色から人間が行って、ハマグリ^④の貝殻をさらし貝にして、薬の入れ物にするようなことを教えたで。さらし貝の^でか^し⁽⁶⁾方から売^る先から教^えてきた一色^④の人が二人ばかりおったそう^だわな。何十年前^だか知^らんけどもそ^んなも^んだ^で、昔は、一色は漁師^④そのもの^{だけ}だ^なし⁽¹⁷⁾に、そういう加工技術もよその漁師^④より、東京の漁師^④より先に進^んど^った^わけ^だな。

■戦争の前後に名古屋市街と下之一色を結んでいた路面電車「一色電車」の写真を多数お持ちと聞きましたが、一色電車について教えていただけますか？



写真-20 下之一色停留所 (地図④)

昔、一色から尾頭橋まで「一色電車」と言う路面電車を^でか^し⁽⁶⁾た^んだ^な。尾頭橋^(おとうぼし) (名古屋市中川区) まで行きゃあ、名古屋の街中^なも^んだ^でな。路面電車を作ったのは名古屋市^だなく、大地主^④が話し合^って、金を出し合^って、そ^んで路面電車^でか^し⁽⁶⁾て、漁師町^④の下之一色^④から名古屋の街中^④に行商^④行くに使^っと^った。これ (写真-20、地図④は、) 一色^④の駅^④だけ^ど、おば^{さん}が魚^④、街中^④で行商^④に行^った^帰り^だわ

わ【聞き手注：一色電車は戦前から戦後（大正2年から昭和44年）にかけて、下之一色と尾頭橋の間を走っていた路面電車である。最初は下之一色電車軌道という私電だったが、後に名古屋市電に買収され、下之一色線となった。尚、名古屋市電築地線（当初は築地軌道という私電）という路面電車が、下之一色から築地口（名古屋市港区）まで走っており（地図の破線）、両線は接続していたため、下之一色線と築地線を合わせて通称一色電車と呼んでいたそう^だ。犬飼^④さん^も下之一色線^④と築地線^④を合^わせ^て「一色電車」^④と呼^んで^いる。】。



写真-21 下之一色停留所とコンクリートの電柱 (地図④)

この写真 (写真-21、地図④) は、電柱あるけども、一色^④だとコンクリ^④の電柱^④でよ^お。でも港区^④はまだ、木^④の電柱^④でな^あ。一色^④の方がだ^いぶ栄^えと^った^な。一色電車^④のこ^こ (前面^④左上) に電^気がつ^くよ^うにな^って^て、一色電車^④は単線^④だ^で衝突^④する^とあ^かん⁽⁴⁴⁾で、電車^④がすり替^わり^のとこ^なると電^気がつ^く。それ^と単線^④だから黒^い輪^っか^を途^中で交^換し^よる【聞き手注：黒^い輪^っは、タ^ブレ^ット^と呼^ばれ^る金^属製^の輪^っか^で通^行票^の役^割を^して^いた。1区^間に1つ(1

種)の通行票を定めて、これを持たない列車を区間内に入れまいなどと決めることで、閉塞(他の電車を入れまいこと)を保っていた。】^{べんてんうら}弁天裏(名古屋市港区)の駅近くとかで輪っかを交換する。交換しないで間違えて走ってくと電車と電車がぶつかってまう。一色電車は最後市電に統合されてまったけど、同じ市電でも市の電車にはライトが付いとらん。電車の左上にライトが付いているの、一色電車だけだ。

電車の数はだいぶ多く走ったぞ。電車が走ってたのはやっぱり細い道でよお、単線だったなあ。でも、電車が街の中を走るから、(写真-22のような)こんなとこに住んどったら、電車でガタゴトガタゴトで(笑)。

今でも一色電車の線路の跡ずーっと道になっとるぞ。おれこの道を使って、今も下之一色の自宅から稲永ビジターセンターに来るで。



写真-22 市街を走る一色電車

これ(写真-23、地図⑭は、)一色電車の車庫、事務所だけでも、車庫が2つ3つあるわな。これ(車庫と事務所の後ろにある松並木)は今もある松蔭公園(名古屋市中川区)だわ。

この一色電車でおれが自慢してることはよ、日本の路面電車のワンマンカーの出発は一色電車だわ。今は何でもワンマンカーだろ。一色電車で試験的にワンマンカーをやりよって、それからバスがワンマンになって、みんなここから広がっていったんでねえか。なんでも試験する⁽⁴⁵⁾のは一色電車だわな。



写真-23 一色電車の事務所(地図⑭)

ほいで、名古屋の地下鉄をでかす⁽⁶⁾ときに、地下鉄車両を昼間は一色電車の車庫へ入れとった。車両の試運転せなあかんだろう⁽⁷⁾。地下鉄の車掌も作業を覚えなあかんだろう⁽⁷⁾。線路をどういふ風に直したらええか訓練もせなあかんだろう⁽⁷⁾。名古屋の街中ではそんなことやとりやせんだろう。地下鉄の寸法に線路もあてがえて、一色電車の終電後の夜に地下鉄を試運転しろうたろ⁽⁴⁶⁾。地下鉄をでかす⁽⁶⁾基礎を、ここで実験して、地下鉄に持ってこったら⁽⁴⁷⁾。

昭和12年に一色が名古屋市に合併したときに、一色電車も名古屋市に買い上げてもらつとるわけだ。ほんで、名古屋市営になったわけだ。ほんで名古屋市が昭和44年頃に市電廃止する⁽⁴⁵⁾ときに、一色電車も廃線にしちやたらろう。おれが一色から稲永ビジターセンター来るまで、川と橋渡らなあかんからなあ、一色電車が残つとったら、ここ(稲永ビジターセンター)まで来易いだなあ【聞き手注：犬飼さんは愛用の自転車に乗って50分かけて下之一色の自宅から稲永ビジターセンターまで来ている。】。

名古屋市としても一色電車は重要な場所だったろう。一色電車は名古屋市の地下鉄の元

だもんだで、一色電車無しでは地下鉄もできなだろう⁽⁴⁸⁾。

■一色電車や藤前干潟の周辺の風景はどのようなだったか、教えてくださいませんか？

松蔭公園(名古屋市中川区、写真-24、地図⑮)の海水浴場には、皆、一色電車に乗って来とったわけだな【聞き手注：当時の松蔭公園(松蔭遊園地)では、庄内川で海水浴ができた。】。そこで海水浴でも、ここでは海だないで川だ。そこで、水泳場けど手土産があるわけだ。手づかみでシジミ採れる(笑)。よその水泳場と違うなあ。



写真-24 松蔭遊園地(地図⑮)



写真-25 当知町と当知池(地図⑯)

一色電車は、庄内川にの明德橋から川岸を南へ走とった。途中、養魚場、池もあったな。昔、当知池(名古屋市港区当知、写真-25、地図⑯)というのがあったなあ。戦争で、愛知航空機の寮をでかさないかんもんだで⁽⁴⁹⁾、荒れ地を開墾して、土を盛って、寮をでかして。そんなとき、土を盛るで穴掘とったところが、池になつとる。電車は、庄内川の堤防の下走とったわ。川から中側(陸側)に線路あつて、

間が池だったわけだなあ。でも、今は池が埋められて、家がめちゃくちゃ建ってまってるもん。何も知らんと家買うなら、下の地盤が悪いで、ちょっと地震で揺すつたらすぐ液状化だ。

他にも大宮司養魚場(写真-26、地図⑰)という、大きな池があつた。名四(名四国道(国道23号線)、庄内新川橋)より南、稲永(名古屋市港区)まで大きな池だった。大宮司養魚場は釣堀で、コイとかフナとかボラとかおつたなあ。養魚場は小さい魚を漁師から買って、育ててた。と言っても餌なんかやらん。食べる用の魚だないでなあ。道路造るのに土が必要だもんで、道路を造る時に掘った穴に、水溜めて養魚場でかした。こっから(稲永ビジターセンターから)築地口行く道の脇にあるへこみ(窪地、地図⑱周辺)、みんな掘って池にした跡だ。



写真-26 大宮司養魚場(地図⑰)



写真-27 新川・庄内川中堤の
先端にあった灯台（地図⑱）

これ（写真-27、地図⑱）は、中堤【^{なかてい}聞き手注：庄内川と新川の間にある堤防（^{どうりゅうてい}導流堤とも呼ばれる）のこと。】の鼻っぽに、灯台ができてったわけだ。そのとき、稲永ビジター周りは建物が何にもない【聞き手注：夜は建物などがなく真っ暗だったため、この灯台が唯一の明かりで、漁に船で出るためにはこの灯台がとても重要だったそうである】。灯台は昭和 35 年にまだあって、漁師無しになった昭和 38 年にもう無しだ【聞き手注：漁業権が放棄され、漁師がいなくなった昭和 38 年には灯台はなくなった。】。

（写真-28、地図⑳を見ながら、）これ昔の中堤だぞお。松が生えてるだろう、終戦前の昔の中堤だ。これ新川側から写してあるわな。松林の向こうに庄内川あるわ。ほんで、おれがこの写真の「新天橋」という名前を見て、

どうしてそんな名前か意味が最初はわからなんだら⁽⁵⁰⁾。よく自分の中で勘考したら、「ニュー（新しい）、天の橋立（天橋）」っていうことだないか⁽⁵¹⁾。他の人はどう思っとるか知らんぞ。でも、京都に天橋立があるだろう。ここも京都の天橋立と同じように松が生えてるで、新しい天橋立だ、と、そう言ったわけだないか⁽⁵¹⁾な。



写真-28 新天橋（新川千間岬）（地図⑳）

でも、戦時中にこの松を伐採しちゃって油を採ったわけだ。戦争が終わった後で、桜を植えてなあ。でも、伊勢湾台風が来たためになっちゃった。そしたら、今度桜を切っちゃって、堤防をコンクリにしちゃっただろう。今も、松並木や桜があつたらきれいだわなあ。あと、昔は今より堤防も高いわけだなあ。今、中堤は低いだろお、昔はもっと高かったわけだ。堤防が地盤沈下していくだなあ。

■藤前干潟の埋め立て問題のとき、どのようなことをされていませんか？

干潟の持ち主が、埋め立てをするって言って、国から許可取ったわけだなあ。国はそんなとき、許可しとるわけだ【聞き手注：今、藤前干潟と呼ばれているところは昔から干潟で、持ち主がいた。昔は、「藤前干潟」とは呼ばず、「千鳥」と呼んでいたそうである。】。干潟の持ち主は国にある程度の金も納めとるだろう。戦争当時に埋め立て工事中止になってしまったけど、それまで相当広い工事もやっとするもんだで。国に納めている金と工事の金とである程度の金、地主の人は出しとるわな。それで、まあ、知ってる人間少ねえと思

うけども、漁業協同組合の役員の間だけが知ってることだと思いうけども、おれら漁やるために、年に幾らって干潟の持ち主へ金納めるこったもん。【聞き手注：漁業協同組合の役員だけが知っている話らしいが、今の藤前干潟と呼ばれる場所で漁をするために、年に決まったお金を干潟の持ち主へ納めていたようである。】組合からお金が上がったもん。カキの養殖場辺りでも、その土地の持ち主のところへお金を納めとった。

そんときの、戦争前の干潟の埋め立ての堤防の基礎石が、昔はあったわ（地図②破線）。導流堤から日光川の方までなあ、基礎石があった。新川は干潮になると海が浅くなるだろう、その基礎石が出てしまって船が通れなんだ。それで干潮時は日光川の方まで船回ってから行った。満潮ならスッと通れたけどなあ。西一区（藤前干潟）の埋め立てのときに、新川の航路掘りで基礎石がなくなったわ。それから、そこを名古屋市が買い取って、埋め立てをしようとしてったわけだな。

辻さん（藤前干潟を守る会名誉会長）とは仲良かった。辻さんは、名古屋市が干潟を埋め立てする時分に、埋め立て反対っていうような行動しとる。おれはその時分は、何もしとらん。おれはよお、辻さんとは博物館で初めて会ったわ。名古屋の博物館で、おれ、漁具の展示したことあるだろう【聞き手注：犬飼さんが集めた漁具が名古屋市博物館に展示されたことがある。】。その時に辻さんが来とっただろう。辻さんは2、3回来とるわ。それからだわ、辻さんにしょっちゅう講演会呼ばれるもんだで。でも、そういうのにあまり出たくねえけど、まあ、嫌々行とったで(笑)。あんまり好きじゃねえわあ、「埋め立て反対、反対」って街ん中行くのは(笑)。「Let's ドンキホーテ」で遊んどったらええわ(笑)【聞き手注：「Let's ドンキホーテ」は名古屋テレビ制作のテレビ番組で、犬飼さんは数回出演している。】。

おれは、埋め立ての反対運動がいつまでも続くかな、と思とったわ。そしたらよお、埋め立て中止になったもんだで、なるほどな、と思つて。埋め立て反対より、おれら元漁師は干潟を買う金の出どころに関心があっただろう。というのも、結局、名古屋市が藤前の土地を買って、ごみの埋め立て場にしる⁽⁴⁵⁾ために、40何億って、そういう銭を出したって知とるだろう。そんな銭どこから出すだろう、どうするだろうって元漁師の間で言つた。おれら漁師辞めた時にもらった補償金 500 万円だったもん【聞き手注：下之一色の漁師は漁業権を放棄する代わりに補償金を受け取った。】。漁業権放棄した時分は、地主が干潟を持とって、その地主が干潟を売るって言った時だ。それからだんだんと干潟の値段が上がって来とるもんだで、それに関心があった【聞き手注：最終的に 57 億円で名古屋市が藤前干潟の土地を買った。】。補償金で漁業権を放棄せんならんだ⁽⁵²⁾一色の元漁師としてだ、そういうことには関心があった。

■稲永ビジターセンターや藤前活動センターに漁の再現模型が多数展示してありますが、これらは全て犬飼さん自身がされたことのある漁法なのですか？

一度に全部そっくり漁具を使える時はないもんで、全部の漁はやっとな。その年によって、獲れる魚が違ってくるもんでなあ。【聞き手注：また、漁具（漁法）は次々と改良され、許可を受けたものが次々使用されていったようだ】。



写真 - 29 大飼さんが作成した漁法の再現模型のひとつ

■今後、藤前干潟がどうなったら良いと思われますか？

坂野さん（藤前干潟クリーン大作戦実行委員長）は、藤前で海苔の養殖やりたいって言うだろう。藤前干潟ではよお、今は海苔の養殖は出来ん。海苔は育たんと思うわな。少し前に藤前にカキが養殖してあったけども、「ああ、えらいもんやったんなあ」って、おれ、そう言ってやったことあったなあ。辻さんに「カキは育たん」て言ったら、「何で」て言われて、「カキの殻で足切っちゃうで、危なっって人間干潟に入れやせんぞ。カキの養殖は無しにしちゃえ」て言ったな。死んだカキの貝殻が流れて、近所ばらまくもんで、海へ入れんでいかん⁽⁴⁴⁾わ。危なくて、カキの近くへ裸足で行きやあせんだらう。

おれはハマグリ⁽⁴⁵⁾の養殖ができたらいいなあ。昔は藤前周辺に天然でハマグリおった。今はもうおらん。ハマグリは水をきれいにするだもんで。シジミでも浄化実験って、藤前活動センターでやっ取るだろう【聞き手注：藤前活動センターや稲永ビジターセンターには、ヤマトシジミを使った水質の浄化実験を来館者に見せるプログラムがある。】。ハマグリも水質浄化するで、藤前の環境を良くすることにもつながるで、養殖やってみてえなあ。ハマグリなら砂地のところなら育つから、庄内川の砂んところで、他のところからハマグリ⁽⁴⁶⁾の稚貝をもらってきて、養殖してみりやええわなあ。ハマグリ⁽⁴⁷⁾の養殖がうまくいくまで、10年かかるかもしれんけどなあ。



写真 - 30 笑顔の海苔漁師

2012年9月

聞き手：佐藤祐一（名古屋自然保護官事務所自然保護官）

野村朋子（自然保護官補佐）

参考資料：「三角州上にできた2つの漁師町 名古屋市下之一色と浦安」 浦安市郷土博物館

犬飼一夫（いぬかいかずお）



昭和6年12月10日、愛知県
名古屋市中川区下之一色生まれ、在住。元下之一色漁業協同
組合漁師。

★注釈（名古屋弁等）

- (1) 跡を継がせなかったから
- (2) 仕方がないから
- (3) 作っていた訳である
- (4) いないではないか？
- (5) 行かなかったなあ
- (6) 作る
- (7) しないといけないだろう
- (8) ～していない
- (9) させてしまってね
- (10) 作っていた
- (11) ではない
- (12) くるっと方向転換（回って）して
- (13) 落としていったところでは
- (14) あんな戦争をやっているときに
- (15) あるのかなあ
- (16) 揺れていなかったら
- (17) ではなく
- (18) やられるし
- (19) 落ちてこなかったの
- (20) わからない
- (21) やってられないようになってきてただろう
- (22) やられていなかったらどうになあ
- (23) ～してもいない
- (24) 何故かと言ったら
- (25) いない
- (26) できないので
- (27) 卒業する
- (28) 買ってくれないのでよくなかった
- (29) 食べられないのでよくない
- (30) 大正3年6月に書かれたものではないかな
- (31) 仕方がなかったんだ
- (32) そっくり、まるごと
- (33) なっているの
- (34) 造った
- (35) 行ってはいけなかったわけだ
- (36) すぐに見ればすぐに分かるぞ
- (37) 獲れなくなっていった
- (38) いはしない
- (39) しぼんでしまった
- (40) そうだったので
- (41) コストが高くてついでしまうので
- (42) どれだけ
- (43) 捨ててしまっていたけれども
- (44) いけない
- (45) する、した
- (46) しただろう
- (47) 行ったんだよ
- (48) 出来なかっただろう
- (49) 作らなければならなかったの
- (50) わからなかったんだ
- (51) ではないだろうか
- (52) しなければならなかった